

三月のテーマ

お金と倫理



え・城谷俊也

金銭は最も 敏感な生物

金

金銭は人間生活になくてはならない存在です。しかし、実体はほとんどなく、いかようにも変化することができます。

例えば、ただの金属や紙に、人間が価値を付与することによって、硬貨や紙幣が生まれます。単なる紙と1万円札では、物質としては同じものですが、その価値には大きな違いがあります。また、電子マネーやオンライン決済といった、目には見えないかたちでも存在し、価値を持っています。

金銭に関して、倫理運動の創始者である丸山敏雄は、著書『万人幸福の栞』の中で「金銭は物質（もの）の中で、最も敏感な生物（いきもの）である」と記し、人の心に敏感に反応すると説きました。

金銭は、自分自身が大切にされ、活かされることを望んでいます。反対に、粗末に扱われることを嫌い、働き場所が与えられないことを嫌がります。そして、持主の心に敏感に反応し、出たり入ったりを繰り返すのです。

金銭の鋭敏な感覚は、それだけ

ではありません。持ち主が、他の「もの」に対して、どのように接しているかもじつと観察し、その心にも敏感に反応するのです。

普段、ものを溜めこむ癖があるSさん。ある日、「今日こそは家中を片付けよう」と決意し、自分の判断で「いらぬもの」を次から次へとごみ袋に入れていきました。一日がかりで大掃除に取り組んだ結果、部屋はすっきりし、晴れやかな心になりました。

ところが数日後、妻から「あそこに置いてあったもの、知らない？」と聞かれたのです。Sさんが「この前、捨てたよ」と答えると、妻は「なんで勝手に捨てるのよ！」と怒り始めたのです。

妻の剣幕に驚いたSさんは、慌てて「普段、使っている姿を見ないから、いらぬと思うって捨てたんだ」と説明しました。すると、妻は「あなたが知らないだけで、私は大切に使用していたのに……」と言います。

大切なものを捨てられ、悲しむ妻の姿を見て、悪かったなと反省

したSさんは、同じものを買ってあげることにしました。

「この前はごめん」と、買ったものを渡すと、妻からは「新しいのは嬉しいけど、もったいないな」と言われてしまいました。この言葉を聞き、Sさんは「人のものを勝手に捨てることは、自分のもの（金銭）も共に出ていくのだな」と気づかされたのです。

金銭は、人の姿を良く見ています。この例では、「妻が大切にしているものを勝手に捨ててしまう」というSさんの姿を見ながら、嫌気がさしてしまったのでしよう。

同じように金銭以外の「もの」をどう扱うかで、自社の業績にも変化が表われます。商品を乱暴に扱ったり、自社の製品を使って必要以上の利を得ようしたり、日頃扱っている道具の手入れを怠ったりすることによって、金銭はすぐに反応し、逃げてしまうのです。そうならないためにも「もの」に感謝し、正しく活かして、金銭に好かれる会社作りを心がけていきましょう。